

## U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

## 米国 純輸出のGDPマイナス寄与縮小(05年4月貿易統計)

発表日: 05年6月10日(金)

~ 貿易赤字は高水準ながら拡大ペース鈍化 ~

(No.U1-043)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

## 貿易収支(U.S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入		財	
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports	財 Goods	Imports	財 Goods		
04/05	487.42	525.80	+38.38	+2.1	(+17.0)	+3.1	+1.6	(+17.8)	+1.5
04/06	548.93	585.89	+36.96	2.2	(+11.3)	3.5	+2.8	(+19.7)	+3.0
04/07	513.32	550.46	+37.14	+2.1	(+12.4)	+3.0	1.1	(+16.6)	1.3
04/08	541.95	571.03	+29.08	+0.3	(+14.5)	+0.5	+2.2	(+21.1)	+1.9
04/09	519.39	556.27	+36.88	+1.2	(+13.3)	+1.4	0.7	(+17.0)	0.4
04/10	555.74	594.32	+38.58	+0.9	(+11.4)	+0.4	+3.0	(+18.9)	+3.3
04/11	589.78	632.32	+42.54	+0.1	(+8.7)	0.9	+2.3	(+20.9)	+2.4
04/12	546.72	595.14	+48.42	+3.1	(+12.3)	+3.5	0.8	(+16.4)	1.0
05/01	580.78	626.97	+46.19	+0.8	(+14.6)	+0.8	+2.7	(+18.5)	+2.9
05/02	601.17	647.39	+46.22	0.8	(+10.1)	1.2	+0.8	(+17.1)	+0.9
05/03	535.62	588.94	+53.32	+1.6	(+8.6)	+1.1	3.1	(+10.4)	3.7
05/04	569.62	622.17	+52.55	+3.0	(+12.7)	+4.2	+4.1	(+14.4)	+4.8

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
	産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		産業資材	資本財	自動車	消費財	
04/08	+0.5	2.2	+0.4	+3.4	+3.8	+2.0	+7.6	0.3	+0.4	0.9
04/09	+1.7	+2.3	0.1	0.3	+1.4	0.4	3.7	+2.2	+1.5	+0.5
04/10	+0.2	+2.7	+0.2	0.1	+0.2	+3.3	+8.0	+0.9	+0.6	+2.2
04/11	1.0	0.7	2.0	1.4	+0.2	+2.4	+6.6	0.7	1.7	+3.3
04/12	+3.4	+3.2	+3.7	+4.9	+5.2	1.0	4.8	+0.4	+1.2	+0.3
05/01	+0.7	+1.0	0.2	+2.2	+0.7	+2.9	0.5	+4.3	+2.6	+5.1
05/02	1.2	+0.8	1.8	5.1	+0.9	+0.9	+4.1	3.6	0.7	+3.4
05/03	+1.3	0.1	+3.0	0.7	0.7	3.7	0.1	1.2	6.8	9.6
05/04	+4.2	+5.0	+5.5	+2.2	1.4	+4.9	+4.4	+7.6	+1.2	+5.5

(注) 季節調整前月比伸比率。

\*1: Industrial supplies and materials

\*2: Capital goods, except automobiles

\*3: Automobiles vehicles, parts and engines

\*4: Consumer goods, except automobiles

	輸出					輸入						
	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本	カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本		
04/08	+15.3	+23.7	+18.0	+11.0	+9.8	0.2	+24.3	+25.2	+20.5	+18.4	+23.5	+17.2
04/09	+15.5	+14.6	+14.0	+14.7	+16.2	+7.0	+16.3	+12.0	+20.6	+7.0	+18.5	+11.3
04/10	+10.7	+9.1	+10.0	+10.3	+8.3	+16.4	+15.1	+11.3	+18.7	+6.2	+12.1	+6.1
04/11	+7.9	+14.2	+15.4	+4.1	2.7	5.1	+27.0	+22.7	+26.8	+16.5	+24.6	+14.2
04/12	+13.5	+15.3	+14.8	+17.2	+3.7	0.6	+15.9	+13.5	+15.1	+8.0	+16.4	+9.5
05/01	+12.1	+16.1	+14.3	+10.3	+5.5	+0.6	+18.1	+14.8	+17.4	+15.8	+17.0	+11.3
05/02	+7.6	+12.0	+9.5	+6.5	0.2	0.2	+16.9	+13.1	+15.4	+7.2	+22.5	+7.2
05/03	+7.4	+9.6	+5.5	+4.4	0.3	2.9	+9.6	+6.4	+13.3	+2.1	+8.8	+8.6
05/04	+12.5	+12.3	+11.9	+11.0	+6.9	4.2	+13.7	+9.0	+20.4	+5.4	+10.5	+4.6

(注1) 末季調整前年比伸比率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

569.62 億ドルと  
再び増加

05年4月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、569.62億ドルの赤字(前月比+6.3%)と市場コンセンサスの580億ドルを下回ったものの再び増加に転じ500億ドルの高水準が維持された。サービス収支の黒字額が縮小し、財収支の赤字額が拡大した。輸出は、消費財が減少したものの産業資材、自動車、自動車を除く資本財の増加を主因に前月比+3.0%と増加した。一方、輸入は原油輸入の増加に加え、資

本財、消費財、産業資材、自動車の増加によって同+4.1%となった。

3月の赤字額が速報の549.86億ドルから535.62億ドルに下方改定されたことから、05年1～3月期純輸出の実質GDP寄与度は前期比年率+0.1%ポイント程度上方改定される見込み。4月の貿易赤字額が1～3月期から縮小していることから、純輸出のGDP寄与度は1～3月期の前期比年率0.67%から4～6月期にはマイナス幅が大幅に縮小すると予想される。

### 今後も原油価格の高止まりや成長率格差を背景に貿易赤字の拡大が続く公算

4月は航空機関連の増加によって輸出が高い伸びとなった一方、輸入も増加に転じたため、赤字額は500億ドル台と高い水準にとどまっている。今後も、航空機関連の輸出は変動が大きく持続的に増加するものではない。また、原油価格の高止まりが続くもと原油輸入の増加が見込まれることに加え、内需の好調から原油以外の輸入も高水準で推移するとみられることから、現状の貿易・経済構造では米国の貿易赤字の大幅な削減は難しいと考えられる。

貿易赤字を大幅に縮小させるためには、輸入が減少するか、輸出が大幅に増加する必要がある。しかし、輸入を減少させるには、国内の消費を抑制しなければならず雇用の拡大ペースが鈍化、或いは減少し、景気後退に陥るリスクがある。このため、輸入が増加するなかで輸出が大幅に拡大する必要がある。この方法としては、貿易相手国の輸入障壁の撤廃、輸出先の米国を上回る高い成長(米国輸入の所得弾性値が貿易相手国よりも高く上昇トレンドにあるため)、ドル実効レート<sup>1)</sup>の減価<sup>2)</sup>が挙げられる。、<sup>3)</sup>については、貿易相手国の輸入障壁は簡単にはなくなり、また貿易相手国の金融財政政策が米国ほどの柔軟性に欠けるため高い成長も期待できない。

ドルの実効レートは、景況感・金利格差を背景に下げ止まっている。今後も、継続的な利上げが予想されるため、ドルの急落は避けられるとみられる。一方、ドルの売り材料となり易い双子の赤字に関しては、財政赤字が補正予算等によって再び拡大すると見込まれる。また、原油価格の上昇や成長率格差によって貿易赤字の拡大が続くとみられ、経常赤字の拡大傾向に歯止めがかかる可能性は低いことから、ドルの上値は抑えられよう。

### あらゆる地域に対する赤字が高止まり

地域別の収支では、対中国が147億ドル(前年比+22.5%)と16ヵ月連続で最大赤字国となった(貿易赤字全体の25.0%に拡大)。対欧州は93億ドル(同33%)と高水準で推移しており、欧州景気を下支えしている。今後、高水準の対欧州貿易赤字が続くと見込まれるものの、欧米金利差の拡大や欧州景気の低迷から、ドルは対ユーロで強含み易い環境が持続しよう。対NAFTAが98億ドル(同+13.0%)、対日は72億ドル(同+11.1%)と高止まり、対OPECが71億ドル(同+32.0%)と原油価格の上昇を映じて過去最高水準まで上昇した。

### 輸出は民間航空機・同部品等の資本財主導で拡大

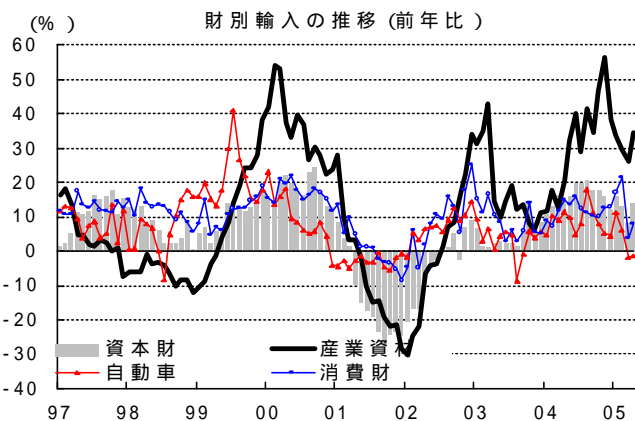
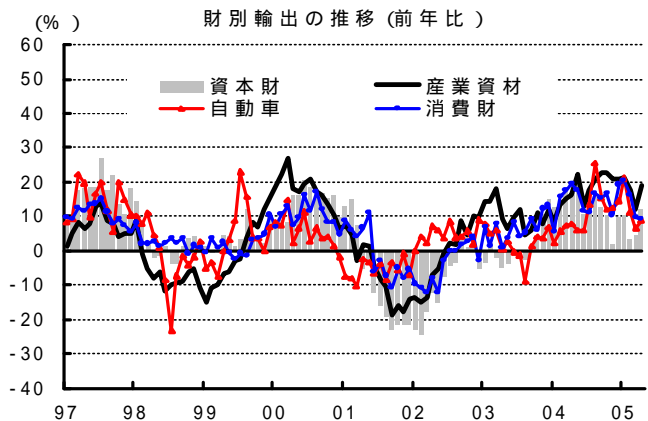
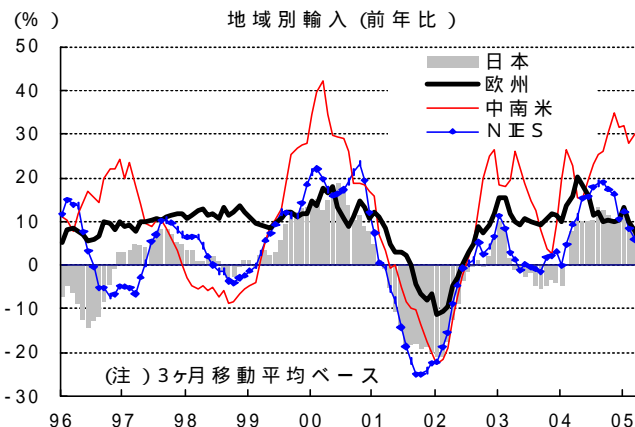
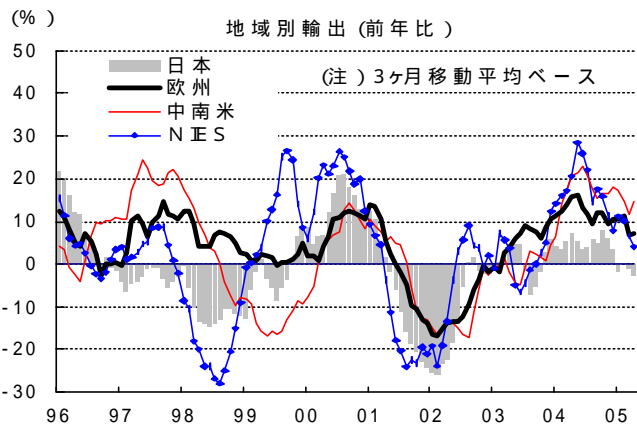
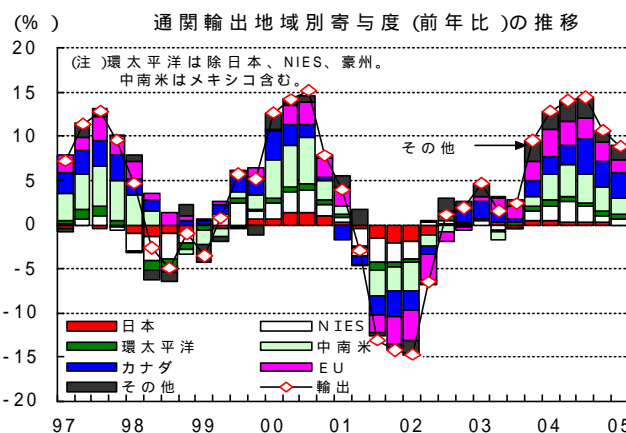
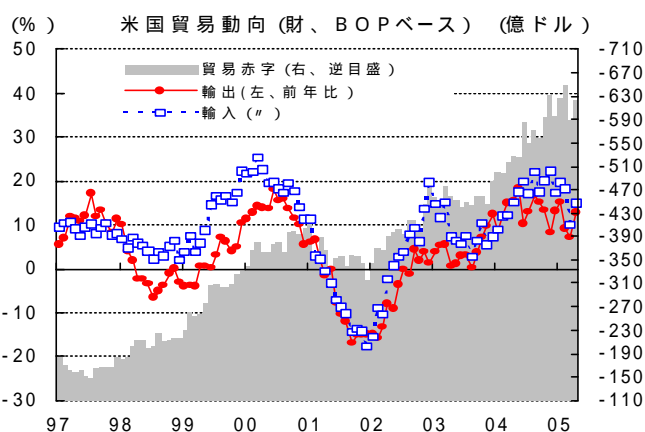
輸出の商品別内訳では、消費財は、骨董品・切手等、ダイヤモンド原石、タバコの減少によって前月比14%と2ヵ月連続の減少となった。一方、資本財はドリル・掘削機が減少したものの、民間航空機・同部品、半導体、産業エンジン、コンピューター部品、金属加工機械の増加により同+5.5%と2ヵ月連続の増加となった。産業資材は、石油製品、金が減少したものの、燃料オイル、プラスチック原材料、化学、鉄鋼・鉄粉等の増加によって同+5.0%と拡大した。自動車は同+2.2%と3ヵ月ぶりの増加となった。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

通関ベースでは、輸出は消費財が減少したものの、産業資材、自動車資本財が拡大したため同+4.2%と増加ペースが加速した。一方、輸入は資本財、原油等産業資材、消費財、自動車の増加によって前月比+4.9%と拡大に転じた。

**輸入は全分類で増加**

輸入の商品別内訳では、自動車を除く資本財輸入は、民間航空機エンジン等が減少したものの、通信設備、民間航空機、産業機械、発電機・同部品、業務機器、計測・検査・制御機器等の拡大により前月比+7.6%と3ヵ月ぶりに増加した。産業資材は、原油、アルミニウム、化学、鉄鉄、石油製品、天然ガス、鉄鋼等の増加により同44%増加した。消費財はアパレル・繊維関連、ダイヤモンド、調合薬、その他家財道具、家具・家庭用品、TV・録画機が増加したため同+55%となった。自動車は同+12%と3ヵ月ぶりに増加した。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。